

<求められる実習内容の提供>

表 31 求められる実習内容の提供

	回答あり (n=223)		実習受け入れ人数記 載あり (n=209)		看護の実習受け入れ 人数記載あり (n=180)	
	度数	割合 (%)	度数	割合 (%)	度数	割合 (%)
提供している	79	35.4	74	35.4	61	33.9
概ね提供している	139	62.3	130	62.2	115	63.9
あまり提供していない	2	0.9	2	1.0	2	1.1
提供していない	3	1.3	2	1.0	2	1.1
無回答	-	-	1	0.5	0	0.0

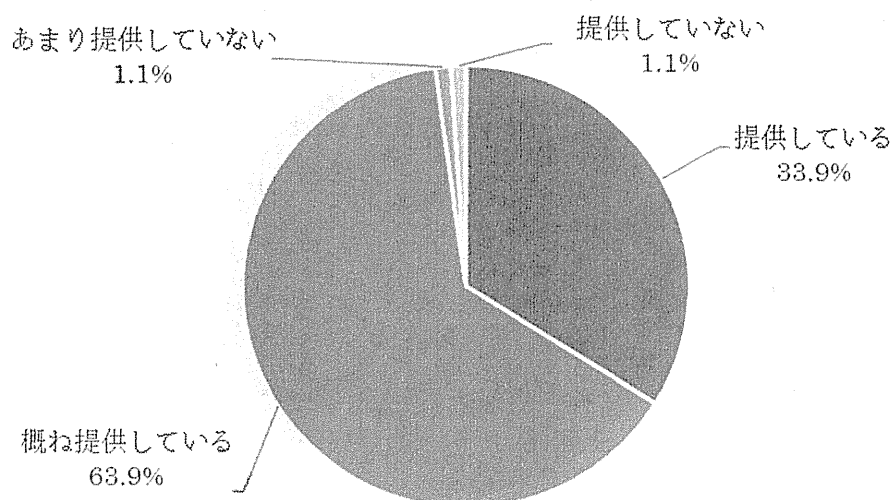


図 2 求められる実習内容の提供 (看護の実習受け入れのあった事業所のみ、n=180)

求められる実習内容の提供は、提供している、概ね提供しているで 98% 近くを占めていた。

<実習の関わり方>

表 32 実習の関わり方（複数回答可）

	回答あり (n=225)		実習受け入れ人数記 載あり (n=209)		看護の実習受け入れ 人数記載あり (n=180)	
	度数	割合 (%)	度数	割合 (%)	度数	割合 (%)
管理者中心に行っている	83	36.9	78	37.3	69	38.3
指導にあたるスタッフ 中心に行っている	149	66.2	138	66.0	118	65.6
特に決めないで状況に 応じて（受け持ち、地 区、事業によって）	53	23.6	50	23.9	43	23.9
その他	5	2.2	3	1.4	3	1.7
無回答	-	-	1	0.5	0	0.0
（その他の内訳）						0.0
CFは管理者、他は指 導スタッフ	1	0.4	1	0.5	1	0.6
同行訪問はスタッフも 実施する	1	0.4	1	0.5	1	0.6
医師のみ	1	0.4	1	0.5	1	0.6
実習指導担当はいる が、他のスタッフにも レクチャーや訪問同行 をお願いする	1	0.4	-	-	-	-

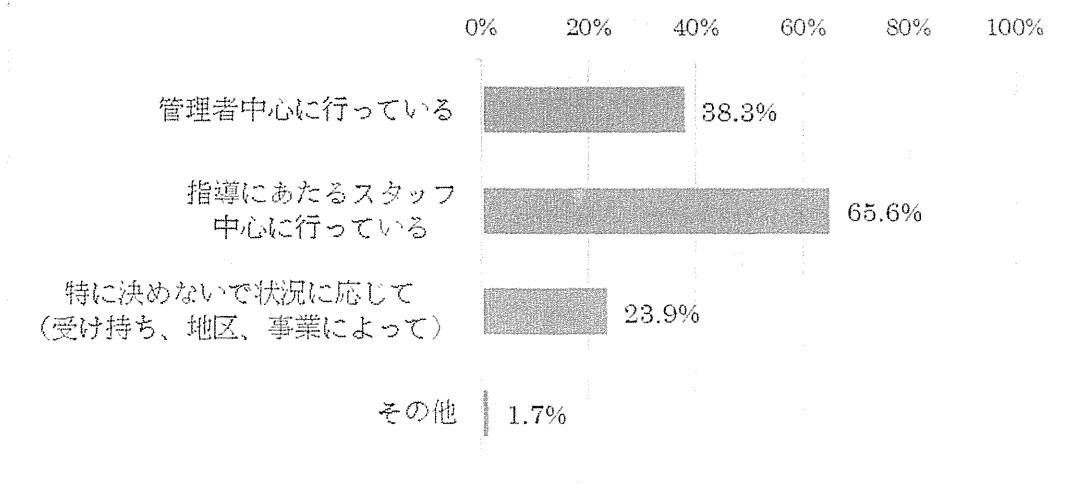


図 3 実習の関わり方（複数回答可、看護の実習受け入れのあった事業所のみ、n=180）

上記の結果より、多くは指導にあたるスタッフ中心でかかわっていることが示された。

結果 5. 実習の評価

表 33 実習目的の達成状況

	回答あり (n=216)		実習受け入れ人数 記載あり (n=209)		看護の実習受け入 れ人数記載あり (n=180)	
	度数	割合 (%)	度数	割合 (%)	度数	割合 (%)
達成できている	24	11.1	24	11.5	21	11.7
だいたい達成できている	146	67.6	139	66.5	122	67.8
どちらともいえない	45	20.8	42	20.1	35	19.4
ほとんど達成できていない	0	0.0	0	0.0	0	0.0
達成できていない	1	0.5	0	0.0	0	0.0
無回答	-	-	4	1.9	2	1.1

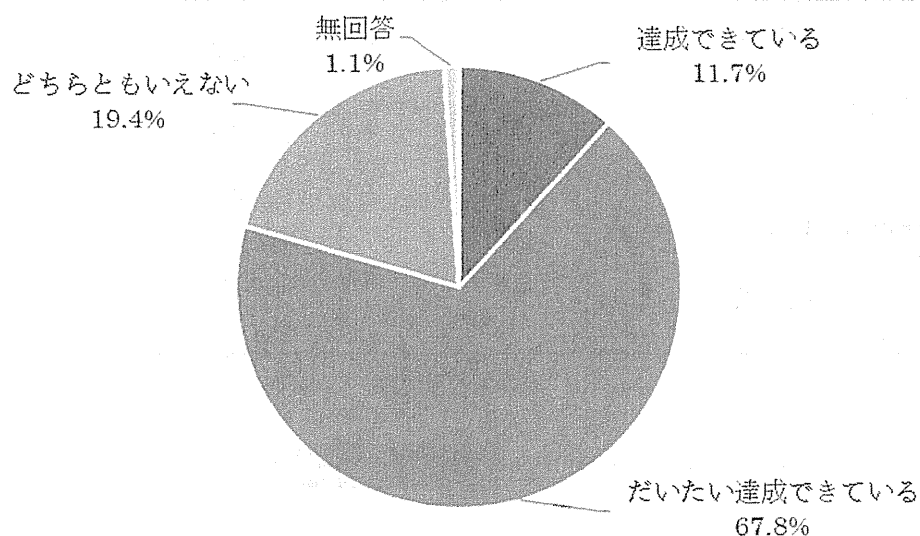


図 4 実習目的の達成状況 (看護の実習受け入れのあった事業所のみ、n=180)

実習目的の達成状況は、達成できている、だいたい達成できていると回答したものが、80%近くを占めていた。達成できている、だいたい達成できていると回答した人の自由記述 (表 42) では、「目標設定が事前にされている」、「目的の水準が高くない」「実習期間が短い」「実習元の要望に応じた内容で組んでいる」などが述べられている。またどちらともいえないと判断されているのには、同じく期間が短い中での判断が難しいことや、適切なケースがないことやその限界があること、学生や学校によって違いが大きいことが挙げられている。

表 34 実習方法の改善の必要性

	回答あり (n=213)		実習受け入れ人数 記載あり (n=209)		看護の実習受け入 れ人数記載あり (n=180)	
	度数	割合 (%)	度数	割合 (%)	度数	割合 (%)
改善の必要はない	18	8.5	16	7.7	14	7.8
それほど改善は必要ない	83	39.0	77	36.8	69	38.3
どちらともいえない	66	31.0	66	31.6	56	31.1
少し改善の必要がある	38	17.8	37	17.7	31	17.2
改善の必要がある	8	3.8	6	2.9	6	3.3
無回答	-	-	7	3.3	4	2.2

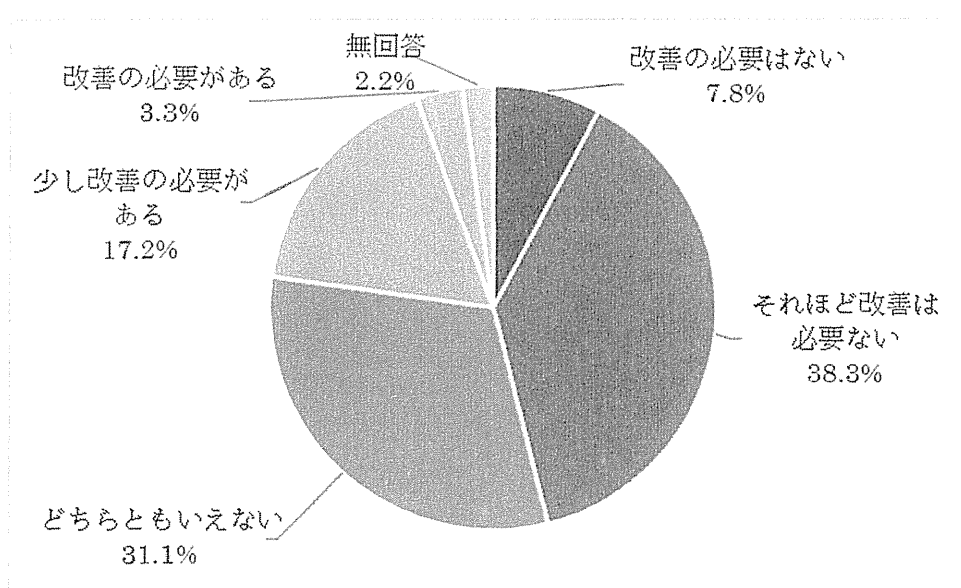


図 5 実習方法の改善の必要性 (看護の実習受け入れのあった事業所のみ、n=180)

実習方法の改善の必要性は、改善の必要なし、それほど改善の必要がないと答えている人は 50%弱であり、どちらとも言えない、少し改善の必要がある、改善の必要があると答えている人が半分以上を占めており、何らかの問題を改善する必要は感じていると考えられる。

自由記述 (表 43) では、改善の必要がないと回答した人の意見では、「現状で十分と考えている」「学校との連携が図られているので問題ない」と述べられている。しかし改善が必要であることの見解には、事業所側の問題として、「実習担当者がいない」「受けている学校数が多い」「体験できるケースが限られる」ことが述べられている。実習方法に関しては、「期間が短いことで関わりに十分時間をさけない」「十分に理解できないまま終わる」「調整がしにくい」などがあり、また教員の問題についても言及されている。どちらともいえないの回答には、「学生の取り組みの姿勢の問題」「学校ごとに差がある」「教育されている内容がわからない」など、改善の必要がある内容が挙がっている。

表 35 実習指導者の準備

	回答あり (n=210)		実習受け入れ人数 記載あり (n=209)		看護の実習受け入 れ人数記載あり (n=180)	
	度数	割合 (%)	度数	割合 (%)	度数	割合 (%)
困っている	7	3.3	7	3.3	6	3.3
まあ困っている	35	16.7	35	16.7	27	15.0
どちらともいえない	73	34.8	69	33.0	61	33.9
あまり困っていない	73	34.8	69	33.0	60	33.3
困っていない	22	10.5	20	9.6	19	10.6
無回答	-	-	9	4.3	7	3.9

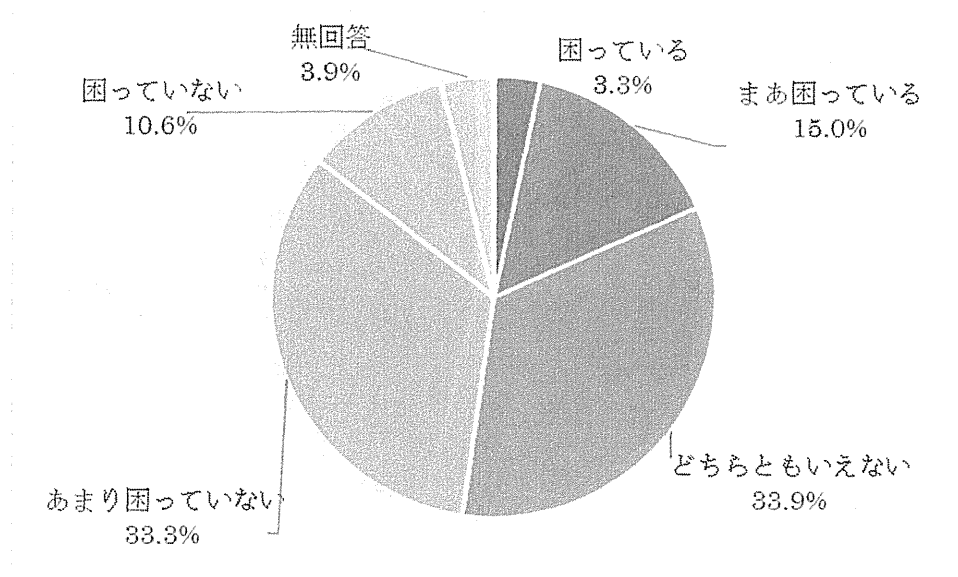


図 6 実習指導者の準備 (看護の実習受け入れのあった事業所のみ、n=180)

実習指導者の準備については、困っていない、あまり困っていないと回答した人を合わせると 44%程で、どちらとも言えないが 33%、困っている、まあ困っているの回答は合わせて 20%弱である。

困っていること答えた人の自由記述 (表 44) の内容は、「職員が少ないことでの多忙さや負担などの困難」が述べられており、「研修受講もままならない」様子がわかる。また実習を受け入れる学校数も多く、負担も増え、書類のやり取りも煩雑であることが述べられている。どちらともいえないの回答の理由にも、困っていると答えた人の記述内容とほぼ同様のことが書かれている。困っていないという回答の人の自由記述では、「あまり準備に時間を取らない」「職員間のサポートでやりくりする」「学校との密な連携」などが書かれている。どの回答にも記述されていることとしては「学生の取り組みの姿勢の問題」が見られた。

表 36 看護学生の実習を受け入れて良かったか

	回答あり (n=200)		看護の実習受け入れ人数記載あり (n=180)	
	度数	割合 (%)	度数	割合 (%)
良くなかった	4	2.0	4	2.2
あまり良くなかった	4	2.0	4	2.2
どちらとも言えない	44	22.0	37	20.6
まあ良かった	89	44.5	77	42.8
良かった	59	29.5	55	30.6
無回答	-	-	3	1.7

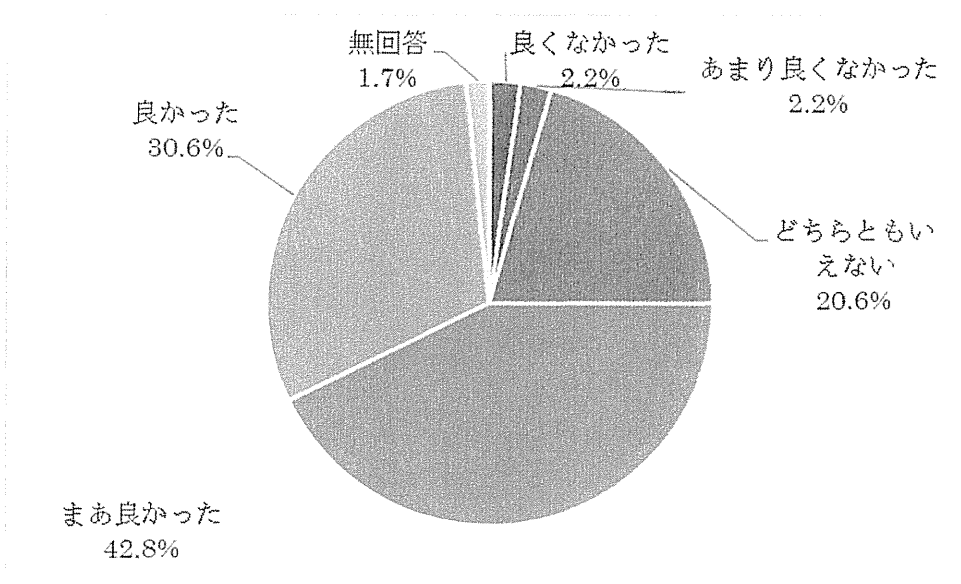


図 7 看護学生の実習を受け入れて良かったか
(看護の実習受け入れのあった事業所のみ、n=180)

看護学生の実習を受け入れて良かったかについては、良かった、まあ良かったと回答した人を合わせると 73%ほどであるが、どちらとも言えないと回答した 20%、良くなかった、あまり良くなかったと回答した人は 5%弱の回答があった。

良かったと回答した人の自由記述 (表 45) では、「事業所のメリットとして業務を見直す機会になる」「指導が良い経験になる」「職員が刺激を受ける」「学生の成長による達成感」などがあつた。また「利用者への刺激や喜び」「学生の関心や理解の促進につながっている」「就職につながることへの期待」などがあつた。良くなかった、どちらでもないと回答された人の自由記述には、「就職にはあまり繋がらない」「職員が実習にとられて大変」という記述もあつたが、殆どはメリットについて書かれていた。

表 37 看護学生の実習を受け入れて困ったか

	回答あり (n=201)		看護の実習受け入れ人数記載あり (n=180)	
	度数	割合 (%)	度数	割合 (%)
困っている	8	4.0	7	3.9
まあ困っている	25	12.4	24	13.3
どちらともいえない	57	28.4	38	21.1
あまり困っていない	80	39.8	73	40.6
困っていない	31	15.4	28	15.6
無回答	-	-	10	5.6

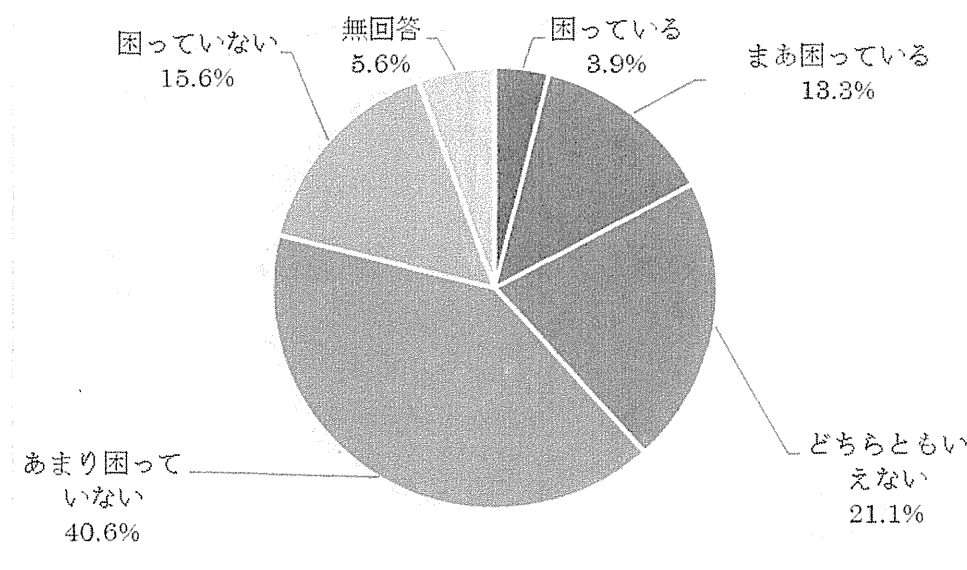


図 8 看護学生の実習を受け入れて困ったこと

(看護の実習受け入れのあった事業所のみ、n=180)

看護学生の実習を受け入れて困ったことでは、困っていない、あまり困っていないと回答した人が 56%で、困っている、まあ困っていると回答した人は 17%程で、どちらとも言えないの回答は 20%程度であった。

困った、まあ困った、どちらとも言えないと回答した人の記述内容(表 46)としては、やはり職員が少ない中で、「通常業務と実習指導の兼務の負担や実習生に対する職員の数の少なさ」、さらに「利用者選定の困難」「学生を同行することによる業務への影響」が述べられていた。学習内容については、「実習で教えるべきことの不明瞭さ」「提供困難な内容を要望される」などのことがあった。さらにここでも「学生の取り組み姿勢について」「学校の力量について」述べられていた。学生の姿勢については、困っていないと回答していた人の自由記述にも多く書かれていた。

表 38 実習で学んでほしいことを伝えられたか

	回答あり (n=216)		実習受け入れ人数 記載あり (n=209)		看護の実習受け入 れ人数記載あり (n=180)	
	度数	割合 (%)	度数	割合 (%)	度数	割合 (%)
はい	152	70.4	143	68.4	128	71.1
いいえ	4	1.9	3	1.4	1	0.6
どちらでもない	60	27.8	52	24.9	45	25.0
無回答	-	-	11	5.3	6	3.3

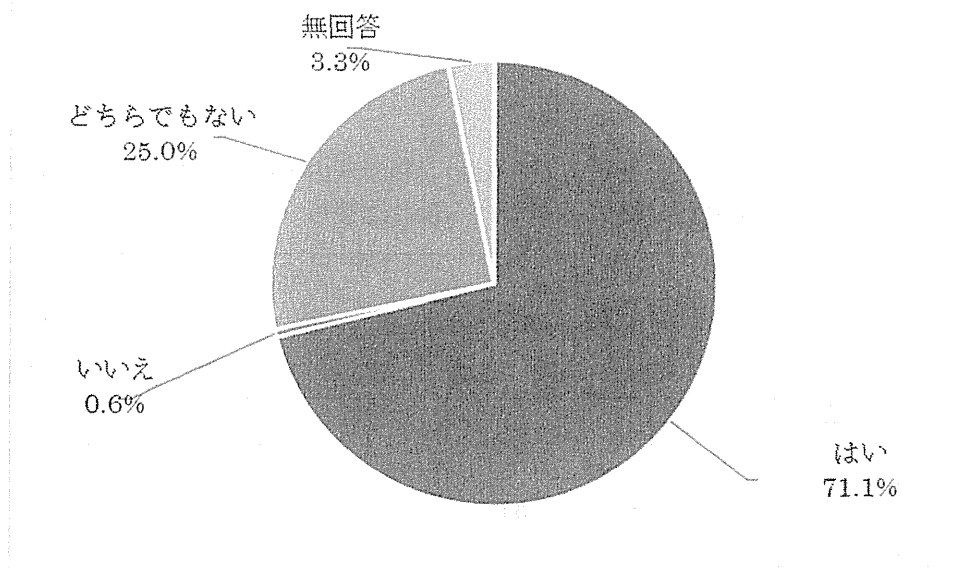


図 9 実習で学んでほしいと思っていたことが伝えられたか
(看護の実習受け入れのあった事業所のみ、n=180)

実習で学んで欲しいことは伝えられたかという問いには、70%前後の人が伝えられたと回答し、どちらでもないと回答した人は25%前後、いいえは1%前後である。看護の実習の受け入れに関わらず傾向は同じである。

表 39 実習で学んでほしいことを伝えられたか（判断理由とのクロス表 実習受け入れ人数記載あり）（n=198 *無回答除く） 複数回答可

	はい (n=143)		いいえ (n=3)		どちらでもない (n=52)	
	度数	割合 (%)	度数	割合 (%)	度数	割合 (%)
カンファレンス等の学生の反応から	125	87.4	3	100.0	36	69.2
学校からのフィードバックから	72	50.3	0	0.0	13	25.0
受け持ちの患者・利用者等の反応から	20	14.0	0	0.0	5	9.6
その他	5	3.5	0	0.0	7	13.5

表 40 実習で学んでほしいことを伝えられたか（判断理由とのクロス表 看護職の実習受け入れ人数記載あり）（n=174*無回答除く） 複数回答可

	はい (n=128)		いいえ (n=1)		どちらでもない (n=45)	
	度数	割合 (%)	度数	割合 (%)	度数	割合 (%)
カンファレンス等の学生の反応から	114	89.1	1	100.0	32	71.1
学校からのフィードバックから	66	51.6	0	0.0	11	24.4
受け持ちの患者・利用者等の反応から	15	11.7	0	0.0	5	11.1
その他	3	2.3	0	0.0	7	15.6

実習で学んで欲しいことは伝えられたかという問いの、伝えられたと判断する多くの理由は、表 39、40 で示されるように、カンファレンスでの反応が多く、ついで学校側からのフィードバックから判断していた。またどちらとも言えないでは、カンファレンスや学校側からのフィードバック、利用者の反応など回答があるが、期間の短さなど十分に判断しかねる状況があるのではないかと推測する。どちらでもないの理由は自由記述（表 47）で示すように、学生によって異なること、学生の表現として出てこないなどがあった。

表 41 スタッフの実習への協力

	回答あり (n=222)		実習受け入れ人数 記載あり (n=209)		看護の実習受け入 れ人数記載あり (n=180)	
	度数	割合 (%)	度数	割合 (%)	度数	割合 (%)
協力して実習指導に参加し てくれる	173	77.9	158	75.6	137	76.1
担当以外は参加出来 ないが、業務の負担をして くれる	16	7.2	16	7.7	14	7.8
時と場合により協力でき たりできなかつたりする	32	14.4	30	14.4	26	14.4
あまり協力は得られない	0	0.0	0	0.0	0	0.0
協力は得られない	1	0.5	0	0.0	0	0.0
無回答	-	-	5	2.4	3	1.7

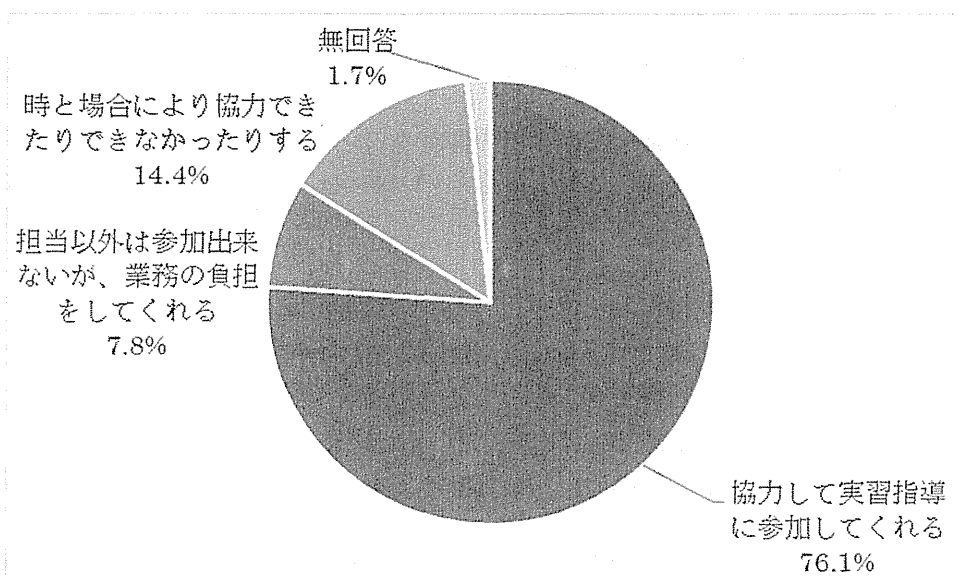


図 10 スタッフの実習への協力 (看護の実習受け入れのあった事業所のみ、n=180)

実習に際しては、概ねスタッフの協力が得られていることがわかる。

回答者の自由記述 (表 48) でも、他の職員が積極的にサポートしてくれたり、人員が少なく忙しい中で、業務の負担を軽くしてくれたり、実習の体制に協力してくれていることがわかる。

結果 6. 自由記述欄のまとめ

表 42 実習目的の達成状況に関する自由記述のまとめ

「達成できている」あるいは「だいたい達成できている」と回答した事業所の自由記述	
事業所の特性に関する記述	<p><体験できるケースに限界がある></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生同行できるケースに限りがあるため、目的達成できない時もある。 ・個人情報の事もあり、同行できないこともあり、実習期間内での体験が少ないことがある。 ・利用者さんの状況によっては、学校の求める、又は学生さんの希望するケースや目的に合わない時あり。 <p><利用者との対話時間が充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療より介護中心の施設なので、落ち着いて利用者と向き合える。
実習の方法や内容に関する記述	<p><事前の目的設定が十分></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各個人が、その日の目的・目標を明確にシートにあげてくるので、何がしたいか、学びたいかがわかり、対応しやすい。 ・事前に実習目的が示される。それに対して、評価すると、だいたい達成できている。 ・実習開始前に実習目的及び目標の確認を行っている為。 ・実習前に個別に目標を発表してもらい、最後に達成できたかを確認している。目標によって、実習内容やオリエンテーションでの説明を変えて達成しやすい状況を作っている。 <p><実習の到達点が不明確></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職については、浅いながらも達成させている。看護職については、具体的な学びの到達点が明確ではないので、本当に学びに結びついたか疑問。 <p><目的の水準を高く設定していない></p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護大学の実習については、短期間であり、目的のレベルも低いので問題ない。 ・1年生の実習で、地域の社会資源を知るための短期間の実習なので、事業所の概要の説明と利用者で接していただければ、良いと考えている。 ・いきなり、他人の家を訪問してケアをするということに戸惑う学生が多い。短い実習期間なので、どんなことをして、どんな意味があるのかということを考えてくれるだけで充分だと思っている。 ・ほとんどの学生の目標が地域の施設の概要を知るという目標のため。目標達成レベルが「理解できる」と理解にとどまるレベルなので、同行訪問し見学、ステーションでの振り返りで学生の理解を深められている。 <p><実習期間が短い></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習期間が短いため、学生・教務からの情報を把握して、実習内容まで持っていくことが難しい。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">実習の方法や内容に関する記述（つづき）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実習日数が短いため、実習目的が達成できたとはいえない。またカンファレンス等の日程を取ることが難しいので、なるべく在宅で生活する高齢者を訪問してもらいたいと考えている。 <p><実習内容が適切></p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅療養の現状を理解できる。 <p><実習元の要望に応じた内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習先の要望に応じて、短期間の中に、プログラムをかなり盛りこんで組んでいる。学生自身も、積極的に多様な内容を学んでいる様子が伺える。 ・大学の要請によって実施 ・もともと伺っている目標は、達成できるよう日々の計画を立てた。 ・看護学校より、送られる「実習要項」の実習目的に添って、実習計画を作成している。 ・記録の展開が一通りできている。 <p><十分にかかわることができている></p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の目的に対しては、達成できるよう関わる事ができている。 <p><体験することによる学び></p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会復帰の場への理解、支援についてなどの体験ができている。 ・地域における高齢者福祉を実体験できている <p><多様なケースの学び></p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの養成所が目標としていることを確認しながら、様々なケースに同行できる様にしている。記録物も確認し、フィードバックしている。 <p><学びの到達度に限界がある></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きくは理解につながっていると思われませんが、実際の深い部分にまでスポットを当てられない事も多いです。 <p><未達成の内容からの学びがある></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ターミナル期で達成出来ない（計画して）事もあるが、それによって更に新たな考えが生まれ活かしているから。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">学生・教育機関側に関する記述</p>	<p><学生の発言や記録></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生、教育担当者から、高評価を頂いている。地域実習に出て、視点が広がったとの意見も多い。 ・実習先の要望に応じて、短期間の中に、プログラムをかなり盛りこんで組んでいる。学生自身も、積極的に多様な内容を学んでいる様子が伺える。 ・最終カンファレンスでの学生の発言内容がクリアで、よく把握できている。 ・入院している人が、どういう過程を経て、在宅療養に移行していくのかを学ぶことで、院内の看護実習と、訪問看護ステーションなどの地域の実習が、つながり理解できたと述べる学生が多い。 ・オリエンテーションで障害の事や、地域における事業所の役割、スタッフの仕事などを説明するので、その辺を頭に入れて、実習に望む学生さんが多く、振り返りのときに実感した感想が出ている。 ・カンファレンスにて学生の感想等で達成感を確認 ・カンファレンスを通じ目的を達成していると感じる。 ・学生の意識による。意欲的な学生が多いと感じる。

- ・学生の記録から在宅看護をおおまかにでも捉えられたような記入がされているから。
 - ・学生の反応、まとめ、教員からの話しからでそう思う。
 - ・学生の反省文を見て、理解できていると思う。
 - ・後日、送られる記録物から何か得る物があった様子がうかがえる。
 - ・最終カンファレンスの内容から、目的はだいたい達成できている。
 - ・指導者として、実習生の意見をカンファレンスで聴き感じている。
 - ・事後のアンケートや実習記録等から、ただタイミング等あわずに希望している物が、提供できない事もある。
 - ・実習初日にカンファを行い、実習目的を聞き、可能な範囲で希望の訪問に同行してもらい、学んでもらっている。また、同行のみで知ることができない点は、伝えるようにしている。実習最終日に終了カンファを聞き、目的と学びを振り返っている。
 - ・実習初日にはできなかった目標の設定や、考察が終日にて体験見学するで理解が深まり、表現も変化していつている。
 - ・終了時アンケートの内容で評価されているので、実習目的は達成できていると考えている。
 - ・初めて看護大学の学生実習を受け入れ、その結果のアンケートよりそう感じた。
 - ・初日、オリエンテーション時は、ケアマネージャーの仕事内容を具体的に答えることはできないが、最終日には、きちんと理解している事が多い。
 - ・達成できるように関わっており、まとめの時、学生が達成できたと言っている。
 - ・福祉施設の役割、病院の入院患者ではなく、在宅の高齢者の病態生理が、学生の記録からうかがえる。
 - ・目標達成レベルが「理解できる」と理解にとどまるレベルなので、同行訪問し見学、ステーションでの振り返りで学生の理解を深められている。
- <学校や個人による違いが大きい>
- ・学校や個人のレベルにより、違いが大きく出てしまう。
 - ・事前学習の取り組み度や、在宅看護の領域への興味関心により、目的の達成度について変化あり。
 - ・自己覚知の必要も理解した上で利用者との関わりを求めるが、相手の障害及びその特性を知ること終始する学生も少なくない。
- <教員からの評価>
- ・学生、教育担当者から、高評価を頂いている。地域実習に出て、視点が広がったとの意見も多い。
 - ・臨床教員からの実習評価報告からは、そのように捉えています。
- <引率する教員が常にいて指導しやすい>
- ・常に引率する教員がついており、臨床指導者も毎週カンファレンスに参加しているので、学生を導きやすい環境なので。
- <学生に対するフィードバック>
- それぞれの養成所が目標としていることを確認しながら、様々なケースに同行できる様にしている。記録物も確認し、フィードバックしている。

事業所の特性に関する記述

<指導に十分注力できない環境>

- ・業務兼の指導体制のため
- ・実習要項をもとに実習指導を行っているが、スタッフが不足している時が多く、兼任しながら指導することが多いので、達成できているかは評価しがたい。

<体験できるケースに限界がある>

- ・グループにより、学習(予習)できておらず、オリエンテーションに時間がかかる。積極性に欠け、こちらでも提供できるものは提供しているが、施設であるため限られる。
- ・その日によって訪問できる方や介護予防教室の開催などがあたらないため緊急対応が入った場合、指導にあたれない。
- ・最近の実習は書面の勉強が多く、実践が少ない。責任の問題でケアをやらせることも少なくなっている。
- ・実習する日のタイミングにより、見学させてあげられないもの(事業、会議など)もあるため。学校側の決める実習日が、こちらにとっては、必ずしも教室(介護施設)などと重ならないので...
- ・実習のタイミングで良い相談ケースが無い場合がある。
- ・実習期間と対象者の訪問日があわない。
- ・実習生が来た時に予定していた作業(花植えなど)が、天候の関係でできないことがあり、良い実習場面を提供できないことがある。

実習の方法や内容に関する記述

<実習の期間が短い>

- ・実習の期間が短いと難しい時があります。又、利用者の同意などの問題もあります。
- ・実習期間が短く、受け持ちをした利用者に1度しか訪問できない。2日間期間で訪問は午前中、午後からは情報と記録になっている。
- ・実習日数が少なく、1クール5名程度を看護師1人、2~3人の学生を受け持つので見学程度になっていると思う。
- ・全ての実習生に同じ内容で実習を行えないため。また1回の実習日程が2日間と短いため。
- ・短期間の実習である為、学生がどこまでできたか、わからない。
- ・地域で暮らす精神の方、その他障害者をかかえた方の支援、日中活動事業所の役割等を1日で実習生に理解してもらうのはむずかしいと感じています。
- ・半日程度の実習なので、施設の役割と施設における医療職の役割を説明して終わってしまいます。学生も特に明確な目標を持っていないように感じる。

<実習の時期による違い>

- ・実習に来る時期(はじめの方~終わりの方)で違ってくる。実習生個人の問題(キャパ)による。

<実習元の要望に応じた内容>

- ・実習概要に沿って行っている為。

<学生の取り組み姿勢の問題>

- ・実習生の参加の姿勢・理解度等によるため。
- ・実習生の受けとめによるから。
- ・目的が対人支援の場合、複数人での実習だと学生でグループを作ってしまうので、対象者との関わりに集中できない印象がある。

<学生の発言や記録>

- ・実習生が自分の実習目的・目標を説明できない。

<学生の感じている内容の把握に限界>

- ・こちらとしては目的に向けて指導していますが、学生側はどう感じているか。

<学校や個人による違いが大きい>

- ・グループにより、学習(予習)できておらず、オリエンテーションに時間がかかる。積極性に欠け、こちらでも提供できるものは提供しているが、施設であるため限られる。
- ・学生の学習の内容によって、達成できる場合も達成できない場合もある。
- ・実習に来る時期(はじめの方～終わりの方)で違ってくる。実習生個人の問題(キャパ)による。

表 43 実習方法の改善の必要性の自由記述に関するまとめ

「改善の必要はない」もしくは「それほど改善は必要ない」と回答した事業所の自由記述	
事業所側に関する記述	<p><現場で調整可能></p> <ul style="list-style-type: none"> ・前日に予定していた同行訪問が急遽変更になることや、実習生の希望するケースの方がいないなど、その現場で調整をおこなっている。 <p><周囲のスタッフのサポートが得られる></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人=1指導者のスタイルだが、周りのスタッフも必要時サポートしているので <p><改善するための体制が整っていない></p> <p>改善すべき点はあるが、現在の施設の体制では難しい。</p>
実習の方法や内容に関する記述	<p><実習期間が短い></p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅看護論は実習期間も短く、指導の内容は多い。経験できるものは、限られてしまうため、今が精一杯な状況。 ・1日または3日間の実習で時間が限られているため <p><実習内容に沿って実施している></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習プログラムに沿って実施
学生・教育機関側に関する記述	<p><学生の個人差をある程度許容している></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教える事もあるが、基本的には実習者本人の気付きからスタートするものなので、個人差は出てしまうのは仕方ない。 <p><学生の取り組み姿勢の問題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設なので実際の職場になるのではないため、学生の興味も薄いように思うため。 <p><学生・教員の発言・記録></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生・教員からの反応でそう思う。 <p><教員との密な連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今の体制で問題なく行われている。また教員とも実習中は密に連携しており、問題点はその都度話し合っている為。 <p><教職員との話し合いが行われている></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学・専門学校教職員との話し合いを行って、受け入れている。

現状で十分と考えることに関する記述

- ・現在行っている方法で、学生が理解できているようなので。
- ・目標が達成され、学生の満足感も高いため。
- ・訪問に同行して、できるケアはやってもらう。担当の利用者のアセスメントをし、看護計画を展開しているというやり方でいいのではないかと考えている。
- ・多様なプログラムを用意できている。
- ・集中して、区切って講義してはふり返るといった形式にしたので、学生達も集中できると思う。聴いているだけよりも実践することで、理解し易いと思う。
- ・実習生の利用者とのかかわりには基本的に介入せず、活動終了後へ振り返りを大事にしている。
- ・今の体制で問題なく行われている。また教員とも実習中は密に連携しており、問題点はその都度話し合っている為。
- ・各フロアスタッフが、学生に対する対応になれてきているので、現時点では、いまの方法でよいと思っています。
- ・各スタッフが慣れており、現場での指導や帰ってからの振り返り指導も行えているから。
- ・たまにスタッフが学生を連れて行くのを忘れてしまうことがあったが、他に大きな問題は聞かれていない。

「どちらともいえない」と回答した事業所の自由記述

事業所側や利用者に関する記述	<p><体験できる内容に限界がある></p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別のケース同行は、なかなかできない。 ・虐待ケースとか困難ケースの訪問希望があったりするが、連れて行くことが難しいケースが多い。 <p><日程や時間調整の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ、看護師や退院時カンファレンスなど、学生が今後、経験する場面に同席できればと考えているが、日程や時間の調整が困難。 ・タイムリーに提供したいと思う事案がないこともある為。 <p><利用者と係る機会に限界がある></p> <ul style="list-style-type: none"> ・当法人は事業所が多く、当事者の方と実際に関わる場面が限られているため、ハード面も理解しつつ、ソフト面でもカバーできることで、より当事者の方のイメージができるのではないかと考えている。 <p><利用者からの反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・同行訪問を断られたり、苦情を寄せられたりしている。 <p><現状で十分と考える></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学で実習のポイントを明確にして、診療所で対応できる日常業務を提示している。理想いえばもっとできるかもしれないが、現実的な実習内容かと思う。
実習の方法や内容に関する記述	<p><実習期間が短い></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度で決まっていることについて、参加して頂きたいが、スケジュールがあわない。期間が短いので、その期間内のスケジュール調整がむずかしい。 ・少ない時間では、内容の理解までは難しい。 <p><実習内容の改善></p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問の比重が大きい。(実習日が事業と重ならないため)。もう少し、違う側面も見せてあげたいと思うのだが... ・特に受け持ちはもたず、見学実習のみでよいと思う。訪問時間は少ないので、そこで看護過程を展開するのは困難だと思う。ほぼ情報収集が看護師の記録にたよっている。 <p><内容の再検討が必要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容について練り直しが必要。大学の指導教官より、特別な行事や会議などに連れて行くより、利用者の生活を知る機会を与えてほしいと言われた。

<p>学生・教育機関側に関する記述</p>	<p><学生の取り組み姿勢の問題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護技術というより、認知症高齢者との関わり方とか、他職種との連携の部分を見てほしいと思うが、やはり、集団としての実習なのか、難しいと思う。また学生自体、施設看護には興味のない様子がうかがえる。 <p><学校による差があるので判断しづらい></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校によって違うので。 ・各学校、大学により、実習期間に差があるので、何とも判断が。 <p><教育機関側で行われている内容がわからない></p> <ul style="list-style-type: none"> ・同行訪問し、指導はしているが、事例検討は学校の方でやっており、どのような指導がされているか不明。 ・大学側がどこまで指導がなされているのか？がいまいち不明であり、学生によっても全く違うため。
<p>判断の保留・検討中といった記述</p>	<p><漠然とした課題意識></p> <ul style="list-style-type: none"> ・漠然ともっと何か良い方法、効果的なやり方があるかも...とは思いますが、具体的には思いつかないです。 ・同行訪問と担当者による説明をメインとし、実習して頂いている。さらにより良い方法があれば変更したい。 <p><他の実習機関の情報がない></p> <ul style="list-style-type: none"> ・他包括で、どのような実習方法をとられているか情報がない。効果的な実習方法があれば、改善したい。

<仕事を伝えきれていない>

- ・しっかりと学生に自分達の仕事を伝えきれていない部分あり。

<施設の設定等の限界>

- ・当院では学生の為に使用できる部屋や更衣室がなく、学習環境がハード面で提供困難な状況である。安心して実習に望めるよう、改善を求めているが、指導者同士ではむずかしい状況である。

<実習担当がいらない>

- ・実習担当がいらない為、訪問をしている看護師に同行し、後で所長がフォロー。業務的に難しいが、改善したいと思っている。

<通常業務との兼務>

- ・現状では、専任の指導者は置けないので、指導を担当するスタッフの負担が大きい。
- ・関わりが少ない（業務のあいまに対応するため）
- ・業務と指導を兼ねていて、実際の実習の様子が見れていない。又、実習生の希望に応えられるよう、法人内の他施設とも協力しながら、提供ができるようにしたい。

<体験できる内容に限界がある>

- ・在宅の状況を訪問して確認することで、現場を理解しやすくなると思うが、在宅生活(療養者)者が実習訪問を受け入れにくいことが多々ある。

<引き受けている学校数が多い>

- ・引き受けている学校数が多く、利用者さんへの負担も増えている印象がある。

<事前学習のプレゼンテーション>

- ・学生は2日間どうしても受身になってしまうので、逆に、この地域をどう捉えたか、包括の役割は何か事前学習をプレゼンしてもらおうとより深まると思います。

<実習期間が短い>

- ・半日程度の見学実習で、地域で生活している療養者の何が理解できるというのか。
- ・日数が短すぎる
- ・短期間で受け持ち患者をつけて、看護を展開していくのは、看護師でさえ困難であり、指導も困難。いろいろなお宅を訪問することで、個別性を実感できるような実習の方がいいのではないかと感じている。
- ・単独で一週間以上の期間は必要と思う。
- ・実習日数が1日だけですと、「一緒に作業して楽しかった」程度の感想しかないようです。事前学習で一度来所して頂ければもう少し詳しくご説明できます。
- ・3日間の実習では地域との連携まで見えてこないのではないかと思います。
- ・特に看護については、期間と学生の能力の隔たりがあり、本年度より変更している。

<日程や時間調整の課題>

- カリキュラムに追われて実習日を一方的に決定される。学生に体験してほしい予定があっても、日程があわない。